

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	日本薬学会、日本結晶学会
※	日本物理学会、日本認知症学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会
※	日本解剖学会
※	日本宇宙生物科学会日本微量元素学会
※	日本医真菌学会・日本感染症学会・日本化学療法学会・日本ゲノム編集学会
※	日本がん転移学会日本がん分子標的治療学会Metastasis Research Society
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本人類遺伝学会、エピジェネティクス研究会
※	日本ゲノム微生物学会
※	日本解剖学会、日本骨代謝学会、日本軟骨代謝学会
※	日本動物学会
※	日本薬理学会、日本生理学会
※	日本人類遺伝学会
※	日本臨床ストレス学会
※	日本薬理学会
※	結晶学会、蛋白質科学会、アメリカ結晶学会など
※	日本薬学会
※	日本再生医療学会米国内分泌学会
※	日本薬学会
※	日本動物学会
※	日本内分泌学会、日本産科婦人科学会
※	日本原生生物学会、日本藻類学会
※	日本エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会、日本RNA学会
※	日本ウイルス学会、日本獣医学会
※	日本ゲノム編集学会
※	実験動物学会
※	日本実験動物学会、日本動物実験代替法学会、日本獣医学会、日本実験動物医学会、米国生理学会、日本病態生理学学会
※	日本生物工学会
※	認知症学会
※	日本生態学会
※	日本骨代謝学会
※	日本循環器学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本糖質学会
※	日本内分泌学会、日本抗加齢医学会
※	RNA学会蚕糸学会
※	日本ウイルス学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本化学会、電気化学会、日本薬学会
※	乳酸菌学会、食品免疫学会
※	日本獣医学会
※	日本臨床免疫学会
※	日本血管生物医学会
※	質量分析学会 日本プロテオーム学会
※	日本RNA学会
※	日本栄養・食糧学会、日本細菌学会
※	日本RNA学会
※	the protein society
※	転移学会、分子標的治療学会
※	糖尿病学会
※	日本微生物生態学会、日本共生生物学会、日本光合成学会
※	日本人類遺伝学会 日本研究皮膚科学会
※	日本栄養食糧学会、日本ビタミン学会
※	日本ウイルス学会、日本遺伝子細胞治療学会など
※	日本基礎老化学会
※	日本解剖学会、日本顕微鏡学会、日本内科学会、日本循環器学会
※	日本血液学会、日本実験動物学会
※	蛋白質科学会、エピ研
※	日本ウイルス学会
※	Japanese Society of Bioinformatics (JSBi)
※	日本再生医療学会
※	日本水産学会
※	日本薬学会
※	日本ゲノム編集学会
※	日本解剖学会

質問5. 所属する学会について〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	日本放射線影響学会
※	日本進化学会、日本バイオインフォマティクス学会
※	日本物理学会
※	日本RNA学会、日本進化学会
※	JSBSS, JSAC, CSJ, JSCSR, ACS
※	日本内科学会、日本腎臓学会
※	日本骨代謝学会・アメリカ細胞生物学会
※	日本内分泌学会
※	日本基礎老化学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本脂質生化学会
※	日本病理学会、日本アミロイドーシス学会
※	日本動物学会、日本農薬学会
※	日本蛋白質科学会、日本核磁気共鳴学会
※	日本ミトコンドリア学会
※	日本薬学会、日本内分泌学会
※	日本実験動物学会、日本ヘリコバクター学会、日本動物学会、日本プロテインホスファターゼ研究会
※	日本神経学会
※	日本筋学会
※	日本体力医学会
※	日本人類遺伝学会
※	エピジェネティクス研究会
※	日本薬学会
※	日本薬理学会
※	日本脂質生化学会
※	日本植物学会
※	米国のいくつかの学会
※	情報処理学会
※	日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育・スポーツ・健康学会、日本宇宙航空環境医学会
※	日本遺伝子細胞治療学会
※	日本病理学会、日本肺癌学会
※	酵母遺伝学フォーラム
※	日本土壌肥料学会、日本土壌微生物学会
※	日本プロテオーム学会
※	日本バイオインフォマティクス学会
※	日本血液学会、国際幹細胞研究会、国際実験血液学会、アメリカ血液学会

質問6-4. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（適切でないと感じる点）

回答者 番号	適切でないと感じる点 記述
※	時間通りに進行していないセッションがあり、本務とのスケジュール調整が難しかった。聞こうと思っていた講演が聴けなかった。
※	オンラインとオンサイトのセッション数のバランスが適切でないと感じた。
※	テーマが偏っている
※	同じ時間に似たようなシンポジウムが組まれており、興味ある公演が聞けなかった。また、会場の行き来に時間がかかるため掛け持ちで聞くのも難しかった。
※	海外からのシンポジストが少ない。オンラインは非常にやりづらい。海外からの人も含めてオンサイトでやるべき。
※	ゲノム、植物が多いと思った。
※	あまり聞きたいと思えるシンポジウムがなかった。

質問6-6. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	オンラインで先に配信するなら、オンサイトの学会をやる意味が半減するのでは。
※	雑多な話が多く、異分野でも聞けるような総論的な内容を含む講演が非常に少なくなったように感じた。これが続くと、トピックが拡散し、広いフィードをカバーする分子生物学会の意義が薄れていくように思う。
※	興味あるシンポジウムはあったが学会前は忙しくて視聴できなかった。オンデマンド視聴ができてよかった。
※	フォーラムの時刻設定が遅すぎる。総会開催時刻と被る設定もあり大きな疑問が残る。午後のスケジュールに空きがあったし、もっと有効利用するべき。
※	概要すら見ていないので評価できない。
※	参加していない
※	存在に気づかなかった参加方法がわかりにくかった
※	ハイブリッド形式の方がよかったと思う。
※	オンサイトと時期がずれていたのに、気付くと終わっていた。
※	オンラインシンポジウムで英語で発表を行ったが、なかなかモチベーションが上がらなかった。ただ、一方で和気藹々とできて良い部分もあった。学会というよりはワークショップに近い感覚。
※	朝と夕方に行うのは悪くないと思ったが、なかなか日々の業務があると集中して聞けない感じだった。ただ、おかげでオンサイトの方が少し事案に余裕があり良かったと思う。
※	学会指定シンポジウムが全てオンラインになってしまったのは大変残念だった。スピーカーは各分野で活躍している方が（そういう方は大抵忙しい）、国内外から参加してくれるが、今回はオンラインで発表終了してしまったため、オンサイトに参加しないというケースが多々あったように思う。これは、学会における議論の機会提供という観点からは、大きな損失であった。
※	オンラインでの学会開催の必要性を感じない。オンラインとオンサイトに分けられると内容が分断されるので、オンサイトのみの良い。
※	質問をしづらい雰囲気でした。
※	オンライン開催の場合、各シンポジストの講演開始時間が予定通りになるように管理したほうが、参加しやすいと思います。
※	学会の直前は忙しいので、ちょっと聞いている余裕がなかった
※	オンライン学会はなかなか参加する時間がとれず一部のみしか参加できませんでした。
※	視聴していない。オンサイトと別に先行で実施する意義を感じなかった。
※	オンラインシンポジウムに参加したかったが、オンサイトでの発表の準備で忙しく参加することができなかった。
※	同じ血管系のセッションと被っているため、観客動員数に影響が出たと思う。
※	不要では
※	見ていない
※	先行開催の意義がよくわからなかった。事前のアナウンスは十分だったろうか？
※	オンラインセッションでは、英語でチャットに質問を書くのは、時間的にもなかなかハードルが高く、活発な議論が難しいと
※	オンサイトでの参加が難しい海外の研究者が比較的多く登壇されていた印象を受けた。オンサイトで会場に足を運んで聞く以上、やはりそこで画面に映し出される人を見ているよりも、登壇している人がいて、終わった後に近づいてさらにお話ができるというのが私にとっては望ましい。ハイブリッド形式の学会では、会場に行ってみて発表者のほとんどがオンライン参加で発表が終わったら話せない・会えないということがよくあった。今回の形式は、オンラインとオンサイトがきちんと棲み分けされていたように感じ、そのようなガッカリ感がなく良かった。
※	オンライン先行開催を含めると学会期間が長くなり不便に感じた。シンポジウム終了後も視聴できる点は便利だった。
※	授業等で参加できませんでした。
※	似たようなテーマが同時開催で行われていたのが残念でした。これだけ大きい学会なので、多少は仕方がないとは思いますが、オンラインですら、このようなことが起きてしまったことが残念です。
※	オンライン先行開催というものがあることすら知らなかった。
※	日本の学会で日本人が開催するシンポジウムを英語で開催する意味はあるのでしょうか。
※	参加していない
※	基礎的なことから実際のこと(病気とのつながり)実用的なことまで含めて、テーマの広がりがある方が魅力的だと思った。
※	企画段階ではコロナの影響が強かったと思うのでこの設計は仕方ない面があるが、やはり現在となってはオンラインではやや物足り無さがあった。
※	各シンポにどのくらいの参加者がいたのか？このカタチが適切かどうかは疑問が残る。
※	オンサイトと独立したオンライン先行開催という意欲的な企画でしたが、「学会参加」に割く時間が増えることになり、スケジュール調整に苦労しました。結果としてあまり落ち着いて聴くことができませんでした。オンデマンド配信もあるとはいえ、ライブ視聴の機会を逃すと何となくそのままズルズルと放置してしまい、ようやく落ち着いた頃には配信終了となり、モヤモヤした感じだけが残ることになります（これは自分の責任ですが）。
※	本当はもっと腰を落ち着けてしっかりと聴きたかったが、忙殺されてあまり参加できなかったのが残念だった。面白い試みと思った。
※	視聴していない。
※	時間帯が悪い。平日の朝から参加するのは難しい。夕方は参加を忘れる。
※	参加していません。特にオンラインは必要はなかったようにも思います。
※	日本国内で研究している外国人研究者や招待した外国人演者が参加できるように、英語のシンポジウムを少なくとも50%以上に増やしてほしいです。
※	オンサイトにフル参加した上で、オンラインセッションに参加する時間を確保することができず、オンラインには参加しなかった
※	オンデマンド配信があることにこのアンケートで気付きました。僕の情報力不足ですが、気が付いたらオンライン配信は終わっていた印象があります。
※	聴く側としては時間の都合がつけやすいのが良かった。想像ではオンラインであることで海外からの発表者も参加しやすいのではないかと思います。そうであれば海外の話聞く機会も増えると思われるのでその点も良いと思う。一方で本当に必要かと言われるとなんと言って良いか悩ましい。
※	せっかくオンラインで英語でやるならもっと海外のシンポジストを入れてほしい。朝と夕方で、参加できない日が多かった。夕方はもう少し遅いと参加しやすかった。

質問6-6. オンライン先行開催期間のシンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者 番号	その他記述
※	海外在住の発表者から非常にレベルの高い発表を聞くことができた。オンラインならではのメリットだと思う。

質問7-2. 公募シンポジウムについて〈複数回答可〉（適切でないと感じる点）

回答者番号	適切でないと感じる点 記述
※	テーマが違うように見えて、結局同じような内容のシンポジウムが多い
※	テーマについて、時間帯の割振りに少し不満があった。比較的マイナーな微生物学系のセッションが最終日の午後に偏っており、結果的に興味のあるセッションに参加できなかった。
※	シンポジウムによっては演題数が多すぎて、質疑応答の時間が確保できていないものがあった。
※	英語の講演が少ない、シンポジウムのタイトルに奇を衒っているものが多い(本質がわからない)。会場が平らなので前の人の頭でスライドが見えない。椅子をずらすなど工夫してほしい。スライドの作り方にルールを設けるべき(文字は何ポイント以上。スライドの文字が小さくて見えないものが多い。論文の表をそのまま載せると見えないから工夫する、スライドの下1/4は空ける、など)。
※	セッション数を減らしてもっと質を上げる方が良いと思います
※	多くの学会で同じようなメンツで同じような内容のシンポジウムをしている人達がいる。例えばncRNAやグリア細胞の人達など。新学術などのために行っているのだろうが、科学の健全な姿とは言えないように思う。
※	テーマが偏っているように感じました。
※	海外演者がとても少ない
※	参加したいセッションが、同時刻に並行して開催されたために、十分に聴講することができなかった。一方で、ポスターセッションの時間は無駄に長いと感じた。
※	3日目午後では微生物関連のシンポジウムが同時に2つ開催されていました。これは微生物学に興味のある参加者にとっては辛い状況です。
※	似ている分野のシンポジウムに時間帯が被っていることがありました。難しいとは思いますが、同じ時間帯の分野被りを避けていただけるようなプログラムをお願いします。
※	海外からのシンポジストは私がみた範囲では少なかった。シンポジストが少なく、一人当たりの発表時間が長いシンポジウムと、シンポジストが多く、発表時間が短いシンポジウムがあり、シンポジウムを梯子して聞きに行くというのには困難を感じた。
※	似たようなシンポジウムが複数並立しているのが目立った。
※	シンポジウムに直接アプライ出来るようにしてほしい。だいたい、口頭発表演題を、すでに設定されている、十分に一般的とは言い難い範疇のシンポジウムに当てはめるのが難しい。妙に奇をてらったシンポジウムタイトルが多すぎる。もっと一般的なくりで、広く演題を受け付けてほしい。
※	午後の部の開始時刻が遅め。
※	テーマが偏っている。
※	もう少し海外演者を呼べるよう、より手厚いサポートがあると嬉しいです(航空券高騰で15万円の補助だと厳しい)
※	海外からのシンポジストの数を多くしてください。日本語のシンポは良くない。全て英語にしてください。
※	偏りは感じたが、シンポジウムにあまり期待していないので、別に不満はない。
※	I don't know the official number of symposiums from overseas. I mainly attended English sessions and there were hardly any presentation form overseas.
※	特定の分野(RNA関連など)のシンポジウムが多いと感じた。そのせいかか分からないが、一部のセッションに過度に人が集まりすぎて全く視聴できないということが度々あった。場所の問題もあると思うが、このあたりは、次回以降運営には考慮してもらいたい。
※	・公募演題がすべて通るレベルのセッションを会員は期待していない。数を絞り、十分な広さの会場で、「高い質のセッション」をプログラム委員会がきちんと選抜すべきだと思う。参加者は、雑談を聞きに学会に来るのではない。ひどいレベルの発表が多い。・特定研究班の集まりは表面的、内輪で盛り上がるだけ、やる気のない発表が多く、学会が場所と時間を提供する必要は無い、他所でやるべきだ。

質問7-10. 公募シンポジウムについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	性別の指定があるためか、オーガナイザーが適切な演者を選んでいるのか疑問に感じるシンポジウムがあった。
※	最終日は、ポスターとシンポジウムの順番を逆にするのはいかがでしょうか。ポスターセッション後に帰宅する人が多数いて、学会が終わったような雰囲気が出来上がっていました。最後の会のシンポジウムの参加者が少なかったです。
※	指定演者の30%を女性演者とするのを条件とするために、研究レベルが高い男性研究者を指定演者とできない弊害があります。既に女性研究者はポスト・研究費などで男性研究者より優遇される局面が多いですし、男性研究者でも色々な面から研究面で不利を被ってきた人たちもいます。学会発表ではせめてフェアに判断して演者を選択できると良いと思います。
※	指定演者のみならず、オーガナイザーについても50%程度は女性としたほうが良いかと思います。
※	国際化に対する英語の要求について、理解はする。だが発音が不明瞭な口演者、質問時の制約など、この方向性を進めることが適切であるのか、十分に検討されたのだろうか？
※	シンポジストにもポスター発表を課す必要があるのか疑問である。シンポジウムの公募に選ばれた場合は、ポスターの発表を行うかどうか選択制にすべき。
※	一部のシンポジウムでは、発表者が東大と理研からのみだったりと、偏りが強いと感じました。プログラム集について、各シンポジウム内の発表の題名だけでも載せておいてほしいと思いました。
※	会場が満員のため聴講出来ないシンポジウムがあった。
※	オンラインでは参加できなかったのわからない
※	参加者に対して会場の大きさが小さすぎるセッションがあったので、一番小さい会場でももう少し広いと良いなと思った。
※	科学の良し悪しに性別、人種、年齢で関係ある？
※	ハイブリッドではなく、オンサイトだったので発表する側としては安心して最新のデータを出すことができよかつたと思う。
※	公募が指定かはわからないが、神経科学分野のシンポジウムが同じ時間帯に開催されたため、片方がしか参加できなかった。
※	性別に関係なく、おもしろい研究をシンポジウムに採択するのが公平である。近年の日本のアカデミアにおける男性差別は目に余る。男女公平の意味が正しく理解されていない。
※	複数のシンポジウムが並行しているため、興味のある発表複数会場に点在していると物理的に聞きに行くことは困難であった。以前のハイブリッド形式であれば、A会場で聴き終わった後にすぐに外に出たところのソファでF会場の発表を聞くというようなこともできたので便利だったと思う。分子生物学会の裾野の広さを考えれば、テーマ・セッション数自体は今の規模でいいと思うので、聴く側がそれらによりシームレスにアクセスできるハイブリッド形式の仕組みが欲しいと思った。時間自体被っている場合や、発表が押しているかと思っていた発表に間に合わなかったといったことも起きるので、オンデマンドで確認もあればありがたい。
※	例えば、「微生物ルネッサンス」と「NEXT微生物学」のように、関連の強い分野のシンポジウムが同じ時間帯に行われている点は非常に不満が残った。私も含めて参加者の多くは両方のシンポジウムに参加したかったと言っていた。関連分野のシンポジウムは異なる時間帯で行うように配慮してほしい。
※	研究内容によっては研究者の内訳にジェンダーの偏りが生じている場合もあるため、そのような研究分野で30%の女性演者を指定すると本来シンポジストのレベルにない演者が含まれることも想定される。研究業界全体におけるジェンダー分布の問題が解決されない時点で発表者の内訳を指定すると違った意味での不平等を招く可能性も考えられる。
※	女性を増やしたいのはわかるが、より良い仕事していれば男女関係なく演者にして良いと思う。
※	会場が狭く入り切れないところがある一方、ガラガラのところもある。会場が離れていて複数のシンポジウムに参加するのは難しい。同時時間帯に興味のあるシンポジウムが複数ある一方で興味のないシンポジウムだけの時間帯もあり、参加者全員が満足できるようにするのは難しいと思うが今回はあまり上手くなかったなという印象。
※	スピーカーの女性講演者割合を会員比率と同程度にしていることは、大変評価できます。様々なよいセッションがパラレルに走っていたので、同時に聞きたいものがあり、会場間の移動がちょっと大変でした。
※	会場が狭すぎて多くの会場で通路に人が溢れていた。空いている会場はほとんどなかった。事前の予測に問題があると思う。
※	同時に興味のあるシンポジウムが開催されていても、シンポジウム会場を歩き来するのは難しい。混んでいると入れないこともある。昨年の分生のように、シンポジウムは100%配信してほしい。
※	多数のシンポジウムが並列して進行しており、会場が散在していることもあって興味あるシンポに参加できないことが多かった。時間を短くしてもよいので、午後2セッションするなどしてほしい。15分を超える発表は冗長になることがほとんどである。
※	立ち見が多く入れないケースが散見された。質を問わずとにかく参加者をたくさん集めるという薄利多売的な学会モデルには限界があるように思う。
※	午前のシンポジウムの開始時間が9:30というのが、日頃の活動時間とマッチしていて大変有り難かったです(9時開始だと少々早くて生活リズムと合わず苦労していました)。11:30頃に終了するのも、午後の予定を組み立てるのに丁度良かったです。選択肢8については、オーガナイザーが進んで考慮すべきことではあると思いますが、条件として付すのはいかがなものかと感じました。
※	似たようなテーマのシンポジウムが同時刻に開催されていた印象がある。できれば日時をずらして欲しかった。
※	今後、LBGTQIにも配慮した表現に修正する必要があるとは思いますが、ダイバーシティ推進のために、「女性・性的マイノリティが30%を超える」ことをめざすことは必須だと考える。
※	シンポジウムの長さはちょうどよいのですが、途中で短い休憩が入るとありがたいです。2時間を超えて座りっぱなしは、腰が痛い体質なので。
※	日本の学会なので、できれば日本語にしてほしい。(英語は十分、人並み以上にできます)
※	自分もシンポジウムで発表したのですが、発表12分、質疑応答2-3分で、短く感じました。自分以外の発表でも同様の時間設定が多く、個々の発表が短くて説明が十分でなかった場合が見受けられました。シンポジウム全体の長さ(150分)としてはちょうど良かったと思います。
※	会場が満席となり臨時で会場を設営したことにより視聴環境が整っていないセッションが一部存在した。また、複数のプロジェクターがある場合、発表者がレーザーポインターを使用すると片方のプロジェクターではどこを指しているのかわからない状況が度々あったのでPC画面上でポインタを動かす方が良かったと感じた。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	奇数番号の発表とサイエンスピッチが同じ時間に設定されていたため、奇数番号の発表時間に人が少なく感じた。
※	ポスター会場が分散されすぎており、1時間で目的の発表を聞くことが不可能だった。会場自体のキャパシティが足りていないし、時間も短く、ポスター発表を尊重していないようにすら感じた。
※	ポスター会場が分散されており、何番がどこなのかの場所がわかりにくかった。
※	サイエンスピッチが何かを良く理解しておらず参加しなかった。
※	ポスターの発表時間が1時間x2であるため、聞きたいポスターを全て聞くことが難しい。1時間x4にすることで、同一時間内に発表するポスターの数を減らすなど、何らかの工夫が必要だと思う。
※	サイエンスピッチの評価基準の一つである、「規定の時間内で発表できたか」の発表時間の計測方法がブースの担当者ごとに異なっていた。発表者がしゃべり始めた瞬間にストップウォッチのスタートを押していたり、発表者が立ち位置に立った瞬間にスタートを押したり、バラバラだった。私のブースは後者であり、係の方から使用可との説明があった発表者ツールのタイマーと、進行の係の人のベルの時間とのラグが5-6秒生じていた。結果、発表者ツールでは、時間内に収まっていたが、係の人のタイマーでは、2-3秒overした。どこまで厳密な基準なのか、わからないが、ブースごとに計測方法が違うのは、大変遺憾に思う。
※	ポスター会場は1か所にまとまっていた方が見やすいと感じた。
※	サイエンスピッチの音声が大きくて、ポスター発表の演者の声が聞こえない。サイエンスピッチは別の会場でやるべき。関係ない話を大きい声でしている人、奇数偶数の割り当て時間以外で発表を続けている人などは、スタッフが別の場所に誘導するべき。
※	ポスターの並び順に不満がある。植物と疾患研究が隣り合っているのは、研究分野の観点からみても不自然に感じた。どうしようもなく寄せ集められた印象を受けた。
※	老人にもサイエンスピッチの機会下さい。うちは院生いないポッチなので若手に限定されちゃうと参加できません。
※	ポスター会場が分かれて過ぎていて、他の人の発表を聞くのが不可能だった
※	サイエンスピッチの優秀者発表は、できれば当日、遅くても週明けすぐにはすべきである。現状、学会終了後4日経っても発表されていない。こうなった理由はしっかりと検討してほしい。
※	サイエンスピッチは良かったが、これに参加していると肝心のポスターを見る時間がなかった。時間配分を考えなおすか、サイエンスピッチをオンラインで事前開催にするのもよい。
※	ポスター発表者の発表時間帯とサイエンスピッチの時間を重ねないようにした方がよいと思う。
※	サイエンスピッチの取り組みは良いが、ポスター前半の時間をフルに使うという割り振りは不適切と思う。
※	サイエンスピッチは良かったが、ポスターの時間と重なるので、ポスターを見る時間が減るのが残念だった。ポスターの前に実施した方が良いのでは。
※	ポスター会場が分散しているため見に行くのが大変で、見たいものが全て見れなかったのが残念。ポスターを貼る会場がとてもしっかりにくかった。
※	3つの会場が離れていて、アクセスしにくい場所などにやや不便だった。
※	サイエンスピッチ自体は良かったと思いますが、近くのポスターを見ているときにうるさく感じました。場所をもう少し話したほうがいいと思います。仕方ないと思うのですが、ポスター会場が沢山あり過ぎて、建物を移動しないと行けないのが面倒でした。
※	ピッチトーク自体の試みは良いが、場所が狭い中でやるので、ポスター発表に影響が出ているようであった。
※	ポスターセッションのオーガナイズには、かなり不自由である不満があった。第一に、サイエンスピッチと発表会場が分かれていることがあり混乱した。ポスター会場での番号表記が各会場前にしかなく、本部前などに無いため、どこに何番のポスターがあるのか探すのに苦労した。ポスター会場では、サイエンスピッチの会場を真ん中に置いており、ポスター番号が分断されているため、演題を探すのに苦労した。とにかく、今回のポスターセッションのオーガナイズは、例年にくらべ多くの不満があり改善を求めたい。
※	ポスター会場は一箇所に集めた方がよい
※	サイエンスピッチは、短時間ながらも発表の機会ということで、良い試みだと思いました。ポスターは、今回会場が4つに分散していたことから、見て回ることが困難でした。ポスターを分野別に並べてもらえると、移動が少なく効率的に見て回れると思います。今回はそのような配置ではありませんでした。
※	・ポスター会場を1ヶ所にまとめて欲しい。歩くのが大変です。・サイエンスピッチはポスター時間外の別の時間を確保してほしい。
※	サイエンスピッチではなくポスター賞を復活させてほしい。サイエンスピッチには賞が設けられていると聞いたが、結果発表がわからなかった。
※	サイエンスピッチの場とポスターが近すぎて、ポスターが聞きづらい場所があった。サイエンスピッチの場所はもっと離れた方がよいのではないかと思った。
※	会場が複数あり、分かりにくい
※	ポスターは、ある程度分野・トピックスごとに場所を分けた方がよいと思う。
※	高校生の発表のエリアが、参加者のわりに狭かった印象があります。分子生物学会の主たる発表ではないのですが、可能であれば、一般ポスター発表と少しスペースを空けていただけると、混雑緩和になるかもしれません。ここで発表した高校生が将来、一般の部で発表するようになってくれると、世代交代もシームレスに進み、分子生物学会の発展につながると思います。
※	サイエンスピッチに参加していると、奇数番号のポスターを聞くことができませんでした。サイエンスピッチがあってから、ポスターの時間がはじまるなどの工夫があるとより良いと感じました。
※	ポスター発表とサイエンスピッチは別時間に独立させた方がよいのではないか？
※	サイエンスピッチの参加規程が学生及びポスドクとなっていたが、私のような実質ポスドクに近い任期付き助教にも参加の資格を与えてほしい。
※	(本学会年会に限りますが)、ポスター発表は時間が限られているので、あまり一人の人がいつまでも発表者と話をしすぎることをないように、訪問者・発表者が多少気づかいをされた方がよいと思うことがあります。若い方や学生(留学生)からは、なかなか「割って入る」ことがしにくいこともあると思います。どこかに1行書いて頂いてもいいのかなど以前から思っています。
※	企業ブースの2次元バーコードの企画はよい発想だと思うが、ポスターの時間と被るのは非常に良くないと感じた。
※	15:45でポスターを剥がされるので見落としたものもあった。もう少し長く貼って欲しい。



質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	対面でのディスカッションを優先し、サイエンスピッチは聴講しなかった(サイエンスピッチはオンライン・オンデマンド形式が良いのではないか)
※	ポスター数が多く、会場が分かれているし、時間も限られる中、満足いくものではなかった。オンラインの時間を別途設けて、質問を集めてはどうか。その方が、双方の利益になります。もちろん、ポスターの検索能力の向上を望みます。
※	ポスター会場の分割が多く、移動に苦労した。特に、どの#がどの会場なのか、区分が小冊子、Web、会場(他会場の記載)に書かれていないので、ブースで書いてもらった。
※	ポスター会場が3箇所にも別れていたため、移動が必要であり、かなり不便であった
※	ポスター会場が複数に分かれていたが、どの会場に何番から何番があるのかオンラインプログラム上でわかるようになっていたか。自分はよくわからないまま初日しばらくポスター会場を彷徨う羽目になった。サイエンスピッチはポスター発表への誘導のような役割も果たしていると思うので、その意味でも先行オンラインなどでやっていたら、オンサイト会期前の選定段階で役に立つのではないかと思う。
※	ポスター会場が3分割され、すべてを見るのが難しい。
※	サイエンスピッチとポスター発表の時間が重なっている点は良くなかった。サイエンスピッチの音が大きすぎて、ポスター発表者の声が聞き取れなかった。サイエンスピッチとポスター発表の時間は分けるべきだと感じた。
※	若い研究者に活気があって良かったと思います。
※	ポスター会場が分散していて、行き来することが難しかった。企業ブースへの集客を考えて分散させたのだと思うが、サイエンスを重視するのであれば、ポスター会場は集中させて良いのではないか？
※	神戸は会場がばらけすぎ。
※	仕方ないかもしれないが、ポスター会場が3つに分かれていて行き来が大変で、見れないポスターが沢山あった。一方で、各ポスター会場の入り口に企業ブースを持って来たのは良い案だと思った。人の流れができて賑やかで楽しかった。
※	出張報告のこともあるので、受賞の発表を大会終了直後にしてほしい。
※	サイエンスピッチは、若手にとってもいい企画だと思います。次年度も継続していただきたいと思います。
※	サイエンスピッチを録画して、学会「期間後に」オンデマンド配信する。もしくは、逆に、各自で短尺の動画にして「期間前に」オンデマンドで視聴できるようにする。
※	ポスター発表時間とサイエンスピッチの時間が重なっていて、聞きそびれたものがあった。異なる時間にしてもらったら良かった。
※	いつものことながら、神戸大会でのポスター会場は実質4ヶ所に分断されていて、どこに何番のポスターがあるかの把握にいつも手間取る。
※	ポスター会場を分断するのはやめて欲しいです。1つのフロアで完結するようにしてほしい。一つの会場でディスカッションして終わってしまう日ばかりでした。別のポスター会場に留まっている人と遭遇できないなども感じました。
※	連番登録したポスターが、サイエンスピッチの会場で分断されてしまった。サイエンスピッチの会場は1カ所に集めた方がよいのではないか？ またポスターの並べ方が悪く、近い番号なのに遠い場所にあることが多かった。番号で探すのがたいへんだった。
※	サイエンスピッチがうるさくてポスターに集中できない。ポスター会場は混みすぎており、演者と議論するのが難しいケースも多かった。質の低いポスターも非常に多い。全体として、質を高め、演題数・参加者数ともに絞ることを考えてほしい。
※	ポスターの掲示場所、特にどの会場に掲示されているかは、プログラム検索・要旨閲覧システムや小冊子に掲載されておらず、各ポスター会場を訪れて知る以外に手段がなかった。発表者、参加者いずれにも不親切な設定だった。
※	興味のある口演が重なってしまって取捨選択せざるを得なくなっても、ポスター発表を聴くチャンスがあるというのは良かったです。反面、興味のある発表はどうしても似たカテゴリーに入るためやはり聴きたいものがバッティングして回り切れなかったり、自分の発表時間と重なっているため物理的に聴けない、ということがあったのが残念でした。ただしこれはある程度あきらめるしかないことだとは思っています。
※	サイエンスピッチの審査員だったが、全部聞いてからの順位づけは、難しくよくないと思いました。項目(話し方、研究内容など)ごとに加点もしくは減点で、トータルで順位がでるようにしたほうがよい。
※	サイエンスピッチについて、受賞者が誰なのか分かりにくい。もう決定しているのですか？
※	3分間のサイエンスピッチを審査するのはかなり難しかったです。審査員はサイエンスピッチとポスターで総合評価する方がよいのではないかと思います。
※	ポスター発表の場所が4カ所に分かれているのは残念だった。全ての会場を回るには時間が足りないが、これ以上時間があっても疲弊してしまいます。出来れば1つもしくは2つの会場で行うのが良いと思います。
※	サイエンスピッチは良い企画だと思うが、ポスター発表の時間とは分離してほしい。
※	ポスター会場が点在し過ぎた印象があります。
※	ポスターセッションの時間とサイエンスピッチの時間がかぶるのは、発表者、聴衆の双方にとって不利益があると思いました。
※	ポスター発表者の説明時間が1時間というのは短すぎる。
※	サイエンスピッチは面白いアイデア。ただ、ポスター時間と被っているのが何となく。
※	目当てのポスターがどの会場にあるのか会場に行くまでわからなかった。online confでは会場名のところにポスター会場が記載されていない。最後まで別の部位に書いてあることに気が付かなかった。サイエンスピッチは聞けなかったのが良いか悪いかの判断はできない一方で、聞く側としては必要性もわからない。サイエンスピッチの近くのポスターではサイエンスピッチがうるさくポスター演者と話しづらかった。
※	もっとファジーなオンライン検索ができるかと有難い。キーワードの検索は便利であるが、ドンピシャの演題しか出てこない。例えば、分野や領域での検索があると良いと思う。
※	オンラインのポスター発表の場合、ライトニング・トークとかあっても件数からして到底見ていられないので、ポスター画像に付随した1分ほどの説明音声みたいなのがいいと思う
※	ほとんどのポスターの文字、特にタイトル文字が小さすぎると感じた。会場が広く、対象分野も広いのでタイトルが読めないと何のポスターか分からず終わってしまう。会場をブラブラして新しい発見ができるかと思ったが無理だった。タイトルのフォントサイズ下限指定などしてもよいと思う。午後のポスターセッション後も17時くらいまでポスターを貼り続けるべきだと思う。今回はセッションが終わったらすぐ剥がせというアナウンスをしていたが、見たかったポスターを見に行ったら既に剥がされてしまっていたので…。

質問8. 一般演題(ポスター発表)全般について<複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスターの数が多く、気になる演題を全て回ろうとすると、ポスター発表者とのディスカッションを十分に行えなかった。オンラインでの質疑やコメントを気軽にできるよう、ポスターにオンライン抄録集とつながるQRコードを貼り付けるなどの工夫があると良いと思います。
※	プログラムに、研究分野の大体の区分けが表示されていると(シグナル伝達、等)、よりわかりやすかったように思います。
※	ポスター会場がバラけていて移動が大変だった
※	サイエンスピッチの時間とポスター発表の時間が重なってしまっていて、もったいないと思った。サイエンスピッチで大まかな内容を聞いた後に、ポスターに行くつもりだったが、それができなかった。
※	ポスター会場が複数に分かれていて、どこにどの番号のポスターがあるのか分かりにくかった。昨年の幕張のように1つの会場でできる方が、サイエンスピッチも盛り上がるし、ポスターも探しやすい。サイエンスピッチと同じ時間のポスターには来客が少なくなる印象だったので、別の時間の方がよいかと思った。もしくは奇数偶数を選択できるようにする。
※	一部のポスター発表の会場も狭く感じた。
※	ポスター発表会場間に距離があり移動がやや困難であった。
※	夕方より早い時間帯で、ポスターだけの時間設定は良かった

質問9. オンサイト会期中の各日のタイムテーブルについて〈複数回答可〉（その他）

回答者番号	その他記述
※	朝、通勤ラッシュのことを考えても、朝少しゆっくりの開始というのが良かった。だらだら長いと集中力が切れるので、丁度だったと思う。
※	日本語と英語が混ざっているシンポジウムがあったが、同じセッションでは統一するべきかと思う。日本語話者でない発表者に失礼かと思う。
※	似たシンポジウムを同じ時間帯にしないでほしい。
※	オンラインではわからない
※	比較的似たテーマが同じ時間帯にあり、聞きたいセッションが被ってしまう傾向があったことが残念であった。
※	最終日は16:00くらいに終わって欲しい。帰りの飛行機がない。
※	分子生物学会は自身とは別の分野を知る良い機会ですが、ポスターもシンポジウムも英語が主となるとその学習効率は落ちます。その点で、他の学会と同じではなく、日本語での最新知見の共有を目指して欲しいです。研究者のだれもが英語が得意なわけではないと思います。
※	ポスターを見る時間が短かった。ポスターの撤去が早すぎた。シンポジウム終了時間前に運営がポスターを撤去するのは不適切だと感じた。
※	午前と午後のシンポジウムの間がかなり空く印象で、ポスターの時間が取れるというメリットはあったが、個人的には午後のシンポジウム開始時には少し疲れてしまった。
※	全体的にバランスの取れたスケジュールだったと思います。強いて言えば、お昼を三宮で食べたので、もう少しお昼時間にゆとりがあってもいいかなと思うくらいでした。
※	家庭の事情で前泊、後泊できないと、1日目の朝早い時間と3日目の夕方のセッションが聴けない。無くすか、そこだけでも配信してほしい。ポスターの日と口頭の日が離れてしまい、3日間出張することになって負担が大きくなってしまった。
※	プレナリ?レクチャーは、あった方がよいと思う。
※	展示見学の時間はできれば無くしてほしい。
※	似たトピックの演題が同じ時間にあるケースがあったので、少し改善の余地あるksも?
※	外国人の参加者にとっては英語のセッションがまとまった場所であったのは良かったと思います。
※	2日の実施で十分に思います
※	人が多く会場内に入れないものや神戸のように会場が分散していて会場間移動が容易でない場合、以前のようにオンラインで聴けると良い。分子生物学会は自分の専門以外の分野の講演も聞けることに意義を感じており、自分は聞きたい公演が分散しているため会場間移動が必須になるが、移動時間を考えると諦めざるを得ないものが多い。オンライン開催時はこの点が解消できてメリットと感じていた。
※	ポスター張り出しの時間をもっと遅めまで可能にしていただけると、遠方からの参加が楽になるためありがたいです。
※	すべてのセッションに参加すると、企業展示を見る時間がなかった。
※	I think all presentations should be in English. To my knowledge this is common practice in all European countries. It is more inclusive and makes the MBSJ meeting more accessible for international visitors.
※	より選抜すべき。指定セッションの中にはあちこちで同じ内容を語る理事もいたのは残念。
※	昼間に空き時間が長くあるのに対して、同一時間にシンポジウム等が重なっており、せつかくの学会なのに複数のシンポジウム・口頭発表を聞くことができないのは不満である。

質問10. フォーラムについて＜複数回答可＞（その他）

回答者 番号	その他記述
※	夕食の選択肢が神戸会場では少ないのに、夜遅い時間帯にフォーラムをされても困る。
※	フォーラムはやや短かった。
※	遅い時刻のフォーラムは、子育て中の関係で聞くことができませんでした。遅いものに関しては、オンサイト&オンラインのハイブリッドだと嬉しいなと思いました。
※	フォーラムの時刻設定が遅すぎる。総会開催時刻と被る設定もあり大きな疑問が残る。午後のスケジュールに空きがあったし、もっと有効利用すべき。
※	オーガナイザーとしてシンポジウムに応募したもののフォーラムに回されました。フォーラムには遅い時間にもかかわらず期待以上の参加者を集めることができ、活発なディスカッションもできました。シンポジウムに採択していただけたら、もっと盛り上がったと思っています！
※	18:30開始、20時終了というものには、内容がなんであれ出席することはないと思う。この時間帯にやらされることがあり得る、というのは、何かを企画・提案するうえで恐怖以外の何物でも無い。
※	フォーラムの内容的にこの時間が適当とは思いますが、10人程度の参加者のものだと、なかなかただ勉強したいだけの参加側にもプレッシャーがかかる。
※	ユニークな企画が多く、よかった
※	フォーラムの開始時間が遅く、参加できなかった。
※	オンラインではわからない
※	こうしたものもオンライン化して、時間を早めるなど考えてはどうか。子供連れの場合、この時間の出席は可能なのか、疑問です。
※	時間帯が遅く、可能であれば、夕方のシンポジウムの前の時間帯などを検討いただきたい。
※	ボスの設定した飲み会の開始時間が19時だったので参加できなかった。決して興味がないわけだが、そういう都合で会場に残れない人も少なくないと思うので、時間の変更は有効な手段だと思う。
※	参加してません。
※	遅い時刻なので参加しなかった。
※	キャリアアップのフォーラムは良くなかった。キャリアで、本当にいろいろと苦労した人の話が聞きたい。
※	フォーラムの時間帯が遅すぎて参加しにくい。この時間帯は、懇親会が入ることが多い。
※	参加したいものもあったが、体力的に厳しく参加できなかった。オンライン開催時はオンラインで参加できたが、今回はできなかった。時間帯的にこの時間帯になるならオンラインでの配信やSNSとの組み合わせも考慮したらどうかと思う。金銭的な問題はわからないが、技術的には問題ないことがこれまでのオンライン開催で確認できているのではないか？
※	フォーラムがなんなのかわからなくて参加しなかった。
※	AIのフォーラムはよかった。基調講演はわかりやすく、さらに座長の進行や要所での発言もフォーラムの趣旨に沿うものであった。AI関連のフォーラムは来年度も開催してはどうか。座長の再登板を期待します。

質問11. 年会の発表言語について(本年会では、指定企画シンポジウム:英語、公募企画シンポジウム:オーガナイザーに一任)＜複数回答可＞(その他)

回答者番号	その他記述
※	特に希望はありません。いろんな形があり得ると思う。
※	今回の方式で良かったと思います。
※	英語は得意な人はいいが、下手な人の発表は内容が良くても聞けたものじゃないので、絶対に日本語を残してほしい。免疫学会は英語のみですが、質疑応答は悲惨です。あんなったら学会に参加する気が起こらない。
※	そのうち発表言語についての議論が必要なくなるような時代が来ると考えられるが、それまでは、企業とも協力して、最新の技術を導入した試験的な講演を、毎年企画して実施すれば、次期大会の開催方法の参考になるのではないかと思います。
※	近い分野のものであれば英語で聞けるが、分子生物学会の醍醐味であるかなり遠い分野の人の発表は、英語ではちょっと聞けない。
※	今年的方式で問題なかったと感じます。
※	スライドは英語でとなっていたが、日本語のスライドで発表している演者も多かった。スライドが英語で、発表が日本語というのは、発表する側としては、少しやりづらく感じる場所があった。
※	参加者の半数が大学生などこれからの若手となるため、各研究領域に精通しているとは言えない。そのため、スライドは英語であっても、日本語を用いたシンポジウム企画が多い方がよい。
※	圧倒的に日本語使用の参加者が多く、発表内容を伝える点、質疑を充実させる点で、日本語使用は避けがたい。無理に英語にしまうと、若い人が質問しにくい、短い制限時間内に聴衆に理解してもらえないと感じる。
※	日本のアカデミアが衰退している1つの原因は英会話教育の失敗にある。「英会話ができなければサイエンスはできない」という現在のやり方では大いに疑問を感じる。英会話教育は学会ではない専門の場で行うべきであり、それを行わず、英会話を理解できないと学会でサイエンスの情報を得られないという体制は教育の怠慢と感じる。日本語はサイエンスが可能な言語である。国内の学会は全て日本語で行えば良い。海外の学会で母国語を廃しているものはないであろう。日本語でサイエンスを広く発信すればアカデミアの若年層への裾野が広がり質も上がる。スポーツ界をみれば裾野を広げる重要性が分かる。まずは日本語でサイエンスの議論を。
※	Q9に書いた通りです。
※	日本語のセッションがあると学生さんなどが親しみやすくなると思いますし、実際そのような意見も聞きました。個人的には学会の国際化のためには全英語にするべきと思いますが、現状は過渡期だと思いますので、まずは若い人が参加しやすい環境というの必要かと思いました。
※	英語にすると質疑応答が極端にへる。これでは本末転倒だと感じる。日本語でもしっかり議論できた方がよいのではないか。
※	英語でやるセッションなら、質疑応答も英語で。
※	一教員・研究者としては英語化に賛成。留学生も増えている。日本人学生には厳しいので何か対策をしても良いかもしれない。ただ一般論として、口頭発表の質疑応答は時間が短い分、後から演者に行くこともよくあると思うので、完全にシンポ全体を日本語化しなくても、日本語話者の学生には手段が残されていると思う。既にあるかもしれないが、日本語話者の学生が英語を聞いたり、発表する方法について毎年WSがあると良さそう。大学によってはそういう英語の教育がない大学もある。またポスターは日本語が多く、逆に外国人の学生にはかわいそうに思った。
※	All presentations should be in English so as not to exclude any non-Japanese attendees (which is discriminatory).
※	英語での議論は、若手含め全く問題なく、議論のクオリティが言葉の問題で下がるということではなかったと思います。
※	現状でよいと思います。
※	セッションを英語で行うことについてですが、素晴らしい質疑応答が展開される一方、「複雑なことを議論するので」ということで日本語でやりとりがあったり、学生さんと覚しき演者が返答に困窮したりという場面があり、その意義に疑問を感じることもありました。
※	セッションによって英語指定でも質疑応答は日本語可とオーガナイザーの判断が素晴らしかった。
※	英語のセッションを増やして、日本にいる外国人研究者が参加しやすい学会にするべきだと思います。若い研究者にとっても英語で議論できる場を増やして行くべきだと思います。
※	コメントは控えたく思います
※	英語使用を推進している学会と比較しても、本大会は日本語使用率が高い印象。その分議論が活発で良いと感じた。英語の場合、やはり議論が深まらない傾向を感じているため。
※	若者や高校生に配慮し、日本語のセッションもあっても良いと思う。
※	英語の良さも日本語の良さもあるので何とも言えない。ただ、昔は尖り気味の本学会も、ローカル好きな学生や若手に合わせて、グローバルからローカルへと下方修正になってきたのだと実感した。
※	The language should be English. To my knowledge many societies in Japan have "English-only" talks. MBSJ seems to be one of the few meetings, which is mainly in Japanese.
※	オーガナイザー側としては海外からの演者に配慮し、質疑も英語を推奨しましたが、日本語での質問もエンカレッジするためにそのように伝えて訳をすることを申し出れば良かったと思いました。
※	座長の采配が一層重要となる。座長には事前にガイダンスとかした方がよいのではないか。誰でも座長がすぐ務まるわけではない。

質問13. 年会の参加登録/演題登録/要旨・プログラム検索/視聴サイトプラットフォーム一体型システム (AGRISMILE社ONLINECONF;オンライン講演セッションはZoomウェビナーで開催)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	要旨詳細画面で、graphical abstractが拡大できないのが不便だった。
※	スマートフォンに対応していて、去年よりマシになったが、ユーザーインターフェースには問題があると思う。使いづらい。
※	「メッセージボード」は便利な機能だったが、投稿前に「所属や名前が全員に見られます」という文言の意味がよくわからなかった。まさか参加者全員に内容が見られるわけではないだろうし、「受信者に名前が伝わります」という意味だと思ったが、工夫が必要と思います。
※	オンラインプログラムが画面に上手く収まっていなくて見通しが悪く、検索もわずかな違いでヒットしないなど融通が効かず、加えて、画面をバックするとクリックしたリンクの位置でなく画面の一番上に戻ってしまうなど、使いにくい点が目立った。
※	プログラム検索が適切にできていなかった。演題番号やタイトルで検索すると、多数の無関係な演題が引っかかり、目的のものを探すことが容易ではなかった。これでは、ほとんど検索の意味がないと思う。
※	オンラインシンポジウムについて、オンデマンドでの視聴方法と視聴開始の時期を事前に告知してほしい。
※	抄録を演題番号で検索できない点は不便だと感じた。また、抄録のPDFをダイレクトに見れるようにして頂けるとありがたい。
※	プログラム検索システムで、共著に入っている人の発表演題が検索できないのがめんどくさかった。
※	要旨・プログラム検索がうまく機能していなかった。検索語を入れると関係ないものも含めて数百件のヒットが出ることもあり、特に日本語に対する検索機能がまったく使えなかった。
※	タイムテーブルの検索で、シンポジウムの内容を確認した後にタイムテーブルに戻ると少し操作のできない間があり、その後タイムテーブルの一番上に戻ってしまうので、使いにくさを感じた。
※	1. プログラム検索でデフォルトの日時指定が初日(11/27)になってしまことがあった。全日にしてもらう方が探しやすい。 2. キーワードとして遺伝子名で検索したときに、キーワードを含まない演題が多数抽出されることがあった(例 Rif1, AND-1)
※	ハートマークといいねマーク二つあったのですが、いいねマークしか押せない時があるのを改善してほしいです
※	プログラム検索が有効ではなかった。可能であれば、聞きたい発表をカレンダー形式に表示できるようにしてほしい。そういうアプリを使った学会も多いと思う。
※	参加しなかったので使わなかった
※	検索の仕様が謎でした。ABで検索しても結果が0で、A<space>Bとすると結果が出てきました。
※	専用アプリのほうが使いやすいという印象です。
※	検索システムはせっかくのGraphical abstractが生かされていないと思うことが多々あったので、タイトルと画像だけで簡単に閲覧できる機能があるとよいと思います。
※	口頭発表は問題なかったが、ポスターは数が多くカテゴリー検索がないので、検索が難しかった。
※	演題検索が使いにくかった。
※	今回の要旨・演題検索プラットフォームは使いづらかった。
※	検索機能が貧弱すぎる。不必要な情報まで検索されてくるので使い勝手が悪い。
※	会場で、ネット接続はできませんでした。検索ではなく、ネット接続に依存しない、プログラムの発表の題名を簡単に見られるシステムが必要だと感じました。
※	ポスター会場でインターネット接続が困難な場合があり、演題検索や容姿の確認ができなかったのが、残念でした。
※	発表者名で検索したつもりが、高校生発表が多数引っ掛かってきたのが不便だった。そこは別扱いで良いのではないか。
※	スマートフォンからの検索時に、一旦チェックボックスをOFF/ONを入れ直さないと適切に検索ができないバグがあった。
※	検索システムがよくなく、探している演題になかなかどりつけなかった。検索後にソートなどができると助かります。
※	以前は携帯のプログラム等の閲覧アプリがあり、便利であったと思っております。PCと連動して共有できることは便利でしたが、使い慣れないところがありました。次回からは、大丈夫です。
※	検索システムが非常に使いにくく、本来であれば興味を持った演題を見落としているように感じてならない。発表者としても、潜在的に興味をもってもらえる参加者にアプローチできていたか疑問。
※	検索に文字を入力すると、ヒットするものが現れるのですが、Enterキーや「検索」ボタンを押すと消えてしまうバグがあった。演題を見ると、Graphical Abstをクリックしてもリンクが貼られておらず、見ることはできなかった。
※	オンラインプログラムが素晴らしく使いやすかった。一方で、ポスター会場が3箇所あり、オンラインプログラムには「何番～何番までがどの会場」という表示がなかったため、観たいポスターを探して3会場をうろろろすることになった。
※	on line confの検索のヒット率が低いと感じた。検索用語間にスペースを入れて対象を狭めたはずなのに、何でも引っ掛かってしまうことがあった。
※	検索能力が悪いのと、iCallにはURLが記入されるが、クリックするとパスワードを求められたり不便だった。検索→カレンダー入力→クリック一つで発表場所も表示できるようにしてほしい。そうになっていたのかもしれないが、使いこなせなかったです。
※	ポスターがどの会場にあるのかわかりにくい。会場の案内ボードにポスター番号(XXXX番からXXXX番)を記載してほしい
※	キーワード検索が適切に働いていないように感じた(何故これが?というものも含まれてくるので、選別が大変だった)
※	検索の絞り込みがでAND検索ができないため、数が減っていきなかった。
※	検索サイトはかなり使えませんでした。全く関係ない情報まで引っかかってきました。
※	昨年もそうだが、要旨のPDFが2ページにまたがってしまい、使い勝手が良くない。工夫すれば全て1ページとなるはずなので、その点は気を使って欲しい。皆だまってクレームが来ないので業者任せになっているのではないか?もしくは運営に携わる人が要旨のpdfをダウンロードしていないので、その使いづらさがわからないのか?理解できません。
※	ONLINE CONFが使いづらい。検索もまともにできないし、要旨からシンポジウムや発表者へのリンクも存在しないのは本当に不便。推しがチャなんて機能いらんし、コメントもいいねもほとんど誰も使ってない。以前のアプリは良かったがそれが難しいなら、もっとまともなものを作れるところに依頼してほしい。
※	プログラム検索サイトで、検索中:要旨を読んで、「戻る」をすると、タイムテーブルの朝一に戻ってしまう。いちいちさっきまで見ていた時刻帯にスクロールして戻るのが面倒でした。

質問13. 年会の参加登録/演題登録/要旨・プログラム検索/視聴サイトプラットフォーム一体型システム (AGRISMILE社ONLINECONF;オンライン講演セッションはZoomウェビナーで開催)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きします<複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	選んだトークがどの部屋のなんというセッションなのかが解りにくい
※	4.に関して、検索漏れが目立った。また画面遷移など変なエフェクトがついている分、動作がもったりしていて、手間だった。学会は長丁場でスマホの電池を節約したいので、お洒落さよりもサクサクシンプルなサイトにしてほしい。また何でもスマホ対応で電池切れになりやすいので、今回のようなサイトであれば紙版のプログラムも欲しかったです。
※	検索の性能があまりよくなかった。Confitの方が良いのでは？
※	絶対改善していただきたい点として、オンラインで演題検索をして最初に出てきた検索結果の画面に、第一著者以外の名前が入っていない点があります。この見え方では、責任著者(どこのラボか?)がわかりません。
※	ただ、やっぱりタイトル集くらいは欲しいところ。
※	プログラム検索は、検索結果がたくさん出すぎて(無関係のものが引かかる)、事実上使えなかった。ポスター会場ではWiFiが繋がらず、プログラムを見ることができなかった(空いている会場では繋がった)。
※	要旨・プログラム検索は、演者やキーワードから目的の演題を探し出すことが大変困難であり、まともに機能しなかった。このようなシステムを平然と提供している組織委員会の態度に疑問を感じた。
※	Graphical Abstractが必要であることを知らなかったので演題登録時に慌てることになりました。あらかじめ告知はあったでしょうか。プログラム検索は目的を達成するのにページを行きつ戻りつしなければならぬことが多く、時間がかかりました。会場が分散しているので、聴きたい演題をマイスケジュールに登録したらタイムテーブルに反映されるような機能があると便利なのだがな、と思いました。オンライン講演については、視聴開始ボタンの場所が解らず、いくつか聞き逃してしまいました(演題ごとではなくセッション別の枠にボタンがあることになかなか気付くことができませんでした)。
※	プログラムの検索についてはもっと良いシステムを導入すべきだと思う
※	二日目の午後、会場でプログラムのサイトに全くつながらなかった。
※	使い勝手があまり良くなかった気がするのは、自分が使いこなせていないからなのか？プログラムから要旨を見てお気に入りしてから次のシンポジウムを見るときなど、毎回一番最初の画面に戻り使いづらかった。ポスターなどは上から順次チェックをしていけ他が、講演の方はそうならなかった。タブレットでは気にならなかったが、スマホでは画面が見づらいと感じた。お気に入りした演題の要旨を一括ダウンロードしたり出来るのか？がん学会ではお気に入りした演題のみのマイスケジュールとか要旨一括ダウンロードができるが、分生のでそのような項目やボタンが簡単に見つからない。
※	タイムテーブルが常にその時の時間で表示されるので、先のプログラムを調べている最中にタイムテーブルに戻ると、もう一度その時間まで移動しなくてはならないのが面倒だった。現在の時間に戻るボタンを設置して、現在時間に戻るかどうかを選択できると良いと思った。
※	要旨・プログラム検索は極めて使いにくかった。検索ワードと検索結果の不一致(探しているものが表示されない、関係ないものが表示される)が多く、ストレスフルだった。ソートや絞り込みなど、検索機能の改善を望む。個別の演題表示画面に会場が表示されないなど、欲しい情報を得るために何度も画面を切り替える必要があるなど、使い勝手が悪かった。
※	プログラムのpdf版は、マイスケジュールに入れたものを一括ダウンロードできるとありがたいです。
※	講演の検索がバグっていて、使えなかった。全員高校生の発表が出てくるし。
※	要旨・プログラム検索に関して:使えることは使えるので、使ってはいたが、昔もっとマシだったシステムがあったと思う。今の割にはイマイチと感じた。ただ、それでも、もちろんあった方がいいのは間違いない。
※	別のところにも同じ内容を記載したが、目当てのポスターがどの会場にあるのか会場に行くまでわからなかった。online confでは会場名のところにポスター会場が記載されていない。最後まで別の部位に書いてあることに気が付かなかった。今回に限って言えば、会場番号を最初に持ってくるのではなく、国際会議場か、展示場か、ホテルかを先に記載し、続けてホテルであれば部屋名、最後に会場番号の方がわかりやすいと思う。どの建物に何番の会場があるは覚えていられない。実際に使う時には、これからどの建物に向かえばいいかを最初に書いてある方が使いやすいと思う。
※	タイトル、発表者、所属など項目別に検索できるとよかった。
※	タイムテーブルからあるシンポジウムを選んで内容を確認した後に再びタイムテーブルに戻るとページの一番左上に戻ってしまうのが不便だった。
※	抄録の検索で、キーワードと関係ない演題もひっかってきて不便だった。ポスターの場所と番号の対比がしづらかった。
※	マイスケジュールをgoogleカレンダーなどの他のカレンダーアプリと連携できるようにしてほしい。

質問20. 今後の年会における他学会との連携についてお聞きします（その他）

回答者 番号	その他記述
※	年会費があまりにも高騰しており、参加に躊躇する会員も多いと思います。1万円くらいに抑え、その程度でできることを考えた方が良くはないでしょうか。
※	あまり他学会との合同開催・連携企画の必要性を感じないが、経費削減や収入増加で学会運営にプラスになるのであれば合同大会が増えても良い。
※	単独年会でいいと思います。合同でやるのであれば、学会自体を合同にした方がいいと思います。いくつもの学会に入るのは、経済的にも負担だし、雑用が増えるだけでよろしくありません。
※	コンソーシアム形式の合同大会とはどういう意味ですか？
※	国内学会との合同企画よりも、海外EMBO, ASCBなどとの合同企画を増やした方が良い。
※	生物物理学会への参加の際、分生の会員は会員として認められるが、その逆は認められないというのは、少し不思議だなと思った。
※	頻繁に合同大会を開催するなら、一つの学会にしてしまった方が良くと思う。生化学会との合併には問題が多いのでしょうか。
※	規模が大きいので2年に一度大々的に開催としても良いのではないかと？
※	意見を持つほど参加経験がない。
※	基本的には「5.」の意見だが、年会ごとに、年会長の方針／重点が異なることはあると思う。経費や事務局の負担を考えつつ、他学会との合同大会の年が数年ごとにそれぞれあってもよい。ただし、両大会のトップ同士の間で、あらかじめ個人的な信頼関係が構築されていることが前提です。
※	学会として変革の時期にある。合同開催を議論する以前の質的課題があることへ、運営側は気づくべきだ。



質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	会場内のWifiの繋がりが悪いと感じることが何度もあったので改善して欲しい。
※	分子生物学会の年会は時期的にも規模的にも魅力が大きいのですが、参加にかかる参加費用が高すぎると思います。徹底的に簡素化し(例えばモニュメントなどはいらなと思います)、参加費が1万円いなくて済むようにすべきだと思います。また、発表する学生に関しても入会金と年会費で事実上7,000円となっているのも問題だと思います。
※	高校生発表は良かったが、ポスター発表のスペースが狭くて混みすぎていた。もう少しスペースを確保するとよいのでは。
※	自分も含めポスドク、スタッフを探している発表者が多かった。さまざまな研究分野の参加者が集まる分子生物学会で、参加している学生とポスドクをさがすラボのマッチングの場を設ける企画があれば、双方にとって良いのではないかと。
※	規模が大きすぎてフォローできない。
※	子連れで参加したので、託児があったのは本当に助かりました。学会会場で結構多くの子供を見たので、子供がいても大丈夫なんだという雰囲気を感じました。ポスター会場にポスターのジャンルの表示があれば、もっとポスターを探しやすかったのではと思いました。ポスターにジャンルを記載したり、ネームタグで使った研究ジャンルシールを貼っておくといった方法があっても良かったかもしれません。ポスターにディスカッションしたい内容を記載しておいたら面白いかなと思いました(例:wetの解析を一緒にしてくれる人を探しています、XXの実験手法について詳しい方に##を聞きたいです)
※	参加人数と部屋の大きさがあわなかった。スクリーンが見えなかった。室温も厚かったし、など、部屋のアレンジはなんとかならないのだろうか。
※	デジタルスタンプラリーに参加したかったが、会場のインターネットが遅く、大会HPが混雑していたため、かなり時間を浪費した。デジタルでなくても良いのではないだろうか。
※	託児所があるのは本当にありがたかったです。夫婦ともに研究者で、小さな子供が複数いるため、学会参加できるかどうかは託児所の有無にかかっています。今後も託児所の開設を続けてほしいのと、未就学児に限らず小学生くらいまでは受け入れてもらえる、子供が大きくなっても学会に参加し続けられます。
※	・発表分類(キーワード)の項目に偏りがある。・スマホの大会サイトでマイスケジュール等を活用しながら参加するのはありがたいが、会場内のWiFiが繋がりにくかった。
※	要旨・プログラム検索のうち、フリーワードによる検索がうまく機能していませんでした。1つの語句に対し、関係ない演題が数百近くヒットすることがあり、自分の興味ある演題を探すことが困難で、聞き逃した演題があったと思うと残念でなりません。特に、日本語の検索結果が悪く、機能の改善をお願い致します。
※	ハイブリッド開催にすることで年会参加費が上がるのであれば完全オンサイトで良い。要旨閲覧サイトの公開がいつの間にか延期されていたのは良くなかった。昨年の要旨閲覧サイトはポスター発表の動作が重かったが今年はスムーズに閲覧できた。参加証の上半分は不要と感じた。参加証に貼るシールはあまり見えなかった。日本酒飲み比べコーナーは非常に良かった。
※	若い世代がオーガナイザーであるシンポジウムに参加したところ、幅広い分野の講演者や聴衆により大変活発な討議ができて楽しかった(1AS-16, 3AS-16)。今後も若手や女性、地方在勤の中堅研究者(いわゆるメインストリームから少し外れるかもしれないがよい研究をしている方々)を積極的にオーガナイザーに採用することで、発表の場が活性化して、学生や若い研究者がより満足できる学会になると思った。
※	1-2会場のポスターの並びがよくない。真ん中にSPの会場が入っているので連番が飛び地になっていた。SP会場の両側ごとに番号が順番に並んでいる方がよい
※	分子生物学会は「年会を面白くしよう」「年会を盛り上げよう」という姿勢が強く、それは他の学会と比べて大きな長所である。一方、これを逆手にとって「面白ければ良い」「ざつぱらん過ぎて良い」という人達もいるように感じた。科学としての厳密性や研究結果(の重要性)に対する謙虚さを忘れて傲慢になってはならない。「人生の選択肢を増やすためのPh.D」のランチョンに参加したが、勝ち組教授の「あまり考えてなかったけどなんとかなった」「自分はなりゆきでなんとかなった」という話が多くて閉口した。本当に若手にアドバイスする気で登壇している人も2名いたが、ずっと話している2名が台無しにしたという印象。
※	最終日のポスター撤収期限をもう少し遅くしてほしい。撤収作業を終えてからではシンポジウムに間に合わなかった。
※	分子生物学会は大きな学会であり、現地でいろいろな人、いろいろな研究に出会えることに価値があると思います。オンライン化はその良さを少し減らしてしまうかも。
※	運営お疲れ様でした。様々な取り組みを感じる事ができました。神戸は立地の関係でお昼ご飯に問題があったり、ポスター会場が分散してしまったりと課題はありますが、概ね良い大会だったと思います。
※	やや質問が多くて長い。
※	初日の午前中のセッションから現地参加したが、ポートピアホテルの地下1階、会場5・6・7の前は大変混雑しており、部屋の中も立ち見が沢山出ていた。中の様子を部屋の外のモニターで中継するなど工夫すべきであったし、何より、いずれも会場が狭すぎた(参加者が多すぎた)。感染リスクが極めて高まる状況であった。
※	形式にこだわりすぎずに、大会長等の意向で、年会ごとにいろいろな試みがあって良いと思う。それが分子生物学会の特色でしょう。
※	いままで見たいたものが重なって迷うことがあったものの、今回はゆっくりとじっくり考えながら学会に参加発表できた。日本酒の試飲ができなかったことを除けば、大変満足する年会でした!
※	とにかく今回は、ポスター会場のオーガナイズが良くなかったと思う(表示方法やサイエンスピッチとの関係性)。あと、要旨検索も見づらく、全体的に不満の多い学会と感じた。
※	参加証が大きすぎる。
※	スライドが見にくい会場がありました。投影を上の方にするなど工夫して欲しかったです。以前はお気に入りにした要旨の一括ダウンロードが出来て便利でした。学会中、パソコンのキーボード叩く音が凄くうるさい人が居て迷惑でした。マナーの周知をお願いして頂きたいです。参加証が大き過ぎて邪魔でした。シールも意外と見えなかったので今までのような物で十分だと思います。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	1. お気に入り登録した発表演題をWeb上で表示させることはできるのですが、それを見やすい形式でエクスポートできるとなお良いと思います。2. 今回、シンポジウム名はわかるのですが発表演題名を知りたいときは、自身のスマホのネット接続が不能だったためもあり、ほぼ不可能でした。1日目、2日目、3日目のそれぞれについて発表演題名リストをあらかじめアップロードしておいてほしいと思います。
※	一人が(別テーマであったとしても)複数演題発表するより、若手を含めて幅広い演者の発表を聴けるほうがよいかと思いました。それ以外は、研究の刺激を大いに受けられ、大変充実した学会参加となりました。開催していただきありがとうございます。
※	参加章へのイラストアイコン貼付シールの生物種の選択については参加者人口への配慮があるべき。具体的に挙げると角が立つかもしれないが、某扁形動物よりも優先されるべき生物があったのではないか。
※	お酒の企画は去年の方がゆっくり楽しめたので去年のスタイルにしてほしい。参加証は大きいのが、裏に地図を作ったり、上下を分けて両面印刷にして文字サイズは変えずに紙のサイズを変えるなど、工夫の余地がまだあると感じる。飲食スペースが少なすぎて、冬なのに外(路上)で食べる人が多いのがよくないと感じた。会場が広いのと建物に分かれすぎていると感じた。せめてポスター会場は企業展示ブースに分けるなどしてひとつにすべき。
※	オンラインとオフラインの会期を分けてしまったらそれぞれ別の学会のようで意味がない。オフラインを主にするのはよいのでオンラインでも視聴可能にしてほしい。
※	会場に設置されたWi-Fiを含めて、ネットとの繋がりが良くなく、会場でオンラインプログラムなどを見るのが困難であった。プログラムの閲覧をオンライン化するのであれば、環境を改善して欲しい。
※	名札が大きく見やすい。名札を持参していない人が多く、手書きだとせっかくの見やすい表示が生かせないので、会場でプリントアウトできるとよい。部屋の大きさと参加者がマッチしないものが数多くあり、会場からあふれているものがあつた。類似演題の時間の被りが少なく、プログラム構成は優れていた。
※	お疲れ様でした。全体的にはとてもいい会で、満足できました。三日目の最後のセッションが終わった後に東京に帰るのは少し大変でした。多分休日の前だからだと思います。
※	オーガナイズありがとうございます。参加証はもう少し小さいといいと思いました。検索システムさえよければ、冊子はなくてもいいと思います。グラフィカルアブストラクトはあまり見る機会がありませんでした。
※	科学の良さはフラットさであるので、妙なシールでPIやそれ以外を区別するとか、余計なことはしない方がよい。
※	企業展示ブースが3つに分かれていたので、企業ブースマップみたいなのが手元にあるとより回りがやすいなあと感じた。もしかしたら、そのようなマップがあつたのかもしれないが、見つけれなかった。
※	参加証が大きくて、メモを取るのに邪魔になりました。名前の印字を大きくし、紙のサイズは小さくできないものでしょうか。
※	オンサイト・オンライン併用は良いと感じた。もし可能なら、郵送された小冊子にオンサイトだけでなくオンラインの日程も含めてもらえると、小さな冊子だけで聴講したい演題を峻別できると思います。運営委員の皆様、ありがとうございました。
※	スライドの写真撮影は禁止のはずだが、一部撮影をしている参加者が見受けられた。中には、すべての発表者のサマリースライドを毎回撮影するなど、悪質な物も見られた。こうしたことがあると未発表データを出しにくくなるので、写真撮影禁止の周知や、悪質な参加者は運営が注意する等の対応してほしい。
※	大変充実した年会でした。企画運営に当たられた方々に感謝致します。
※	○ アンケートの選択肢に工夫が必要(不満がある内容に関する選択肢がない。)○ ポケットプログラムにポスターのもう少し詳しい情報が欲しい。例えば、見たい分野のポスターがいつでもどこであるのかわからなかった。○ 演題検索システムも非常に使いやすかった。興味のある分野にどのような演題があるかを、タイトルと著者の情報を一覧できるようにしてほしい。○ 名札が大きくて邪魔なのに大事な情報がみにくい(名前や所属の位置が下過ぎて見えない)。所属の英語表記がなかった。○ シンポジウムの座長席に、演者、所属、タイトルの情報(特に英語)がなく、困った。
※	参加章に職位を示す必要はない、と思う。
※	ポスター投稿してシンポジウムに採択していただいたが、持ち時間が指定演者の半分だった。シンポジウムを企画する方と知り合っていないと、口演で発表する機会がほぼないことを残念に思う。若い人はサイエンスピッチがあるが、やはり聴衆も少なく、持ち時間も少なく、気の毒である。
※	プログラムアプリがとにかく検索しやすかった
※	演題検索で、発表者以外の共著者の検索ができないのが不便。参加者名簿も共著分が表示されないのが不便。
※	日本国内の学会発表は基本的に日本語でよい。わずかな数の海外演者、海外来場者のために、英会話を得意としないがサイエンスを志す日本の若い人を排除している現在の体制は、日本のアカデミアにとって大きな損失となっている。英会話および英語による議論を教育するには、学会以外で専門の教育の場を設けるべきである。
※	アンケートの設問・回答欄の文章が非常にわかりづらい。
※	お昼のキッチンカーが思っていたよりもしょぼかった。神戸開催は屋食難民の救済をもっと考えるべき。
※	気のせいだが、オンサイト学会の賑やかさが感じられなかった。オンラインに参加したので、オンサイトには参加しなくてもよいという参加者がかなりいたのではないか。企業の展示ブースも以前より減ったように思う。
※	「Graphical Abstract」は内容をよく知らない者には分かりやすいが、強制的に作るとなると、発表者側はより負担を感じる気がしました。
※	要旨・プログラムサイトが、使いにくい。Graphical Abstractが見にくい(特に要旨を見ながら見れない)。要旨内でどこの会場なのか分からない。
※	シンポジウムの会場の大きさの設定が小さすぎるように感じる
※	今回のオンサイトでの分生学会については、個人的にはあまり見所もなく、今までの学会よりオンサイトで行く意味がなかったように感じた。オンラインとの併用は良いとは思いますが、オンサイトの内容が少し薄い・物足りない感じを受けた。試みを行っている最中で、分子生物学会の規模から考えると併用など領けるところだが、それなりの経験がある人間からすると、今回の形・構成の様な学会であれば、もしかすると今後はオンサイトには参加をしないかもしれない。また、今回のオンサイトの口頭発表では、部屋に入れず外のモニターで聞くようなことも多かった(外のモニターでも多くの人が見られ、見られない時もあった)。うまく会場規模を調整する必要があるかとも感じたし、会場に入れないことが多くなるのであれば、オンサイト発表がある演題に関してはon-demand配信なしのリアルタイムhybrid形式を用いても良いのかもしれないと感じた。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	宣伝の意味も含めて各シンポジウムの説明をサイエンスピッチ形式で先行配信してはどうか。
※	サイエンスピッチの受賞者は学会期間中に発表して、学会を盛り上げてほしい。後日発表では学生の喜びも半減になり、またSNSでの拡散度合いも低くなり、学会の宣伝効果が薄れると思います。スケジュール的に大変かと思いますが、この点は次年度以降の改善を望みます。
※	大会長です。総括は別の機会に行いますが全体として満足できる形で終わることが出来たと思います。
※	悪評がたっていたと思いますが、昼食がまともに食べられませんでした。お弁当くらい販売しても良いのではないのでしょうか？運営に携わった人はお弁当がフリーで配られていたので、全く気にならなかったのですが、参加者が、会話しながら自由に昼食とれるような配慮があっただけかと思いましたが、ネームカードに、職位のシールは貼るのは悪趣味ではないでしょうか？演題の前では参加者は全て平等な一科学者でありたいと願っています。教授と学生は同じ目線で職位なんぞは関係なく発表内容を議論するべきと考えます。そうしたセンスを持った研究者にとっては、大変不愉快なシステムです。海外の学会でも名札に職位を書くようなことはしないとします。はっきり言って悪趣味です。
※	研究不正問題はすでにあきらめたのですか？
※	ソフトドリンク フリーがもっとあっても良いと思った。
※	オンライン型にもオンサイト型にもそれぞれに利点があるのは分かりますが、分子生物学会ほどの大きな学会がそのどちらの利点をも追及しなくてもいいのではないかと思います。学会規模が大きいために、オンサイトだけで十分ではないでしょうか。
※	私は、朝からずっとポスター前で説明・発表しています。持ち時間だけでは短く、混雑もするので、持ち時間以外でも説明&閲覧活動ができる環境(明るく、広い)になっていたのが、大変ありがたかった。
※	特になし。
※	運営について100%みなさんが満足する正解がないかもしれませんが、個人的にはとてもよい年会だったと思うので、運営の皆さんには大変感謝しております。去年の幕張は企業展示&ポスター会場が寒かったのですが、今年はそんなこともなく過ごせたのが良かったです。他にもとても楽しそうな企画が多数ありましたが、時間の制約で、参加できなかったのが残念でした。Graphical Abstractは、発表検索にはほとんど活用できず、推しガチャで利用価値があるかなと思いました。発表者からすると手間ですが、使い方によってはアリなのかなと思います。ポスター発表時にセクハラがあったという話があったので、そういったものを撲滅していけるよう、委員会には厳粛な対応をお願いしたいと思います。生物系の小規模な学会での役職を引き受けていますが、男女共同参画やさまざまな配慮に関して遅れている面が多く、分子生物学会のような大規模学会での変革・改善に背中を押されて進められるような側面もあります。今後も、生物系学会でリーダーシップを取って頂けたらと勝手に期待しております。
※	学会として行動規範を設けるべきである。アカハラ・セクハラを訴える窓口を設置すること。男女共同参画参画学協会連合から脱退したのはなぜなのか、時代と逆行しているように思える。単にシンポジストに女性を入れるだけではダメ。学会の申し込み時に、学会が設置した行動規範に従うことを求め、それに従わないことが窓口などを介して確認できれば、処罰を設けるべきである。危機感を持って対応しないと、分生のイメージが悪くなると思う。
※	参加証は大きすぎて邪魔に感じました。その割に名前の文字は小さくありません。
※	Needs more English communication. Even this survey is 100% Japanese, which heavily marginalizes participation of non-Japanese society members, which I believe is discriminatory.
※	今回会場内ではないのですが、分生参加者との交流の場で、セクシャルハラスメントを受けました。具体的には、性的な画像を見せられたり、性的な発言や女性蔑視発言を受けました。他の学会ではそのようなことは過去一度もなかったのですが、大変怒り呆れるとともに、会員・参加者の行動規範の必要性を強く感じました。このようなセクシャルハラスメントは、学会員の心理的安全を脅かし、サイエンスを志す若者を遠ざけることになり、学会コミュニティの将来にとってマイナスの効果しかありません。また、分子生物学会というブランドにもマイナスイメージがつきます。次年度以降、ぜひ会員・参加者によるハラスメント防止対策を徹底していただきますようお願い申し上げます。このようなセクシャルハラスメントは、学会員の心理的安全を脅かし、サイエンスを志す若者を遠ざけることになり、学会コミュニティの将来にとってマイナスの効果しかありません。また、分子生物学会というブランドにもマイナスイメージがつきます。次年度以降、ぜひ会員・参加者によるハラスメント防止対策を徹底していただきますようお願い申し上げます。
※	国際会議場の上層階の会場のアクセスが悪く、また、案内表示が十分でなかった。5階の会場、第12会場と13会場にいくのにかなり迷いました。少なくとも案内をしっかりと出してほしかったです。ランチョンセミナーは、当日券があったので、事前予約で落選したのにはいれたのはよかったです。これは、以前のようにすべて当日券に戻したほうがよいかと思われました。
※	昨年のような学会グッズ、マグカップを作って欲しい。
※	・年会参加登録費が高すぎる。医学系の学会より高い。コストカットの意識が低いのではないかと感じる点が多々ある。ハイブリッド開催は止めた方がよい(メリットがコストに見合わない)。・多くの会場で人が廊下に溢れていたことは反省すべきであろう。完全にキャバを読み違えている。神戸特有の問題ならば、今後神戸で行うことを見直してはどうか？
※	色々な話題があり楽しかったです。また、参加したいと思います。
※	もっと様々な広いテーマを取り上げてほしい。テーマが偏りすぎているように思った。
※	子どもを帯同しないといけない研究者への旅費補助があるといいと思いました。研究費から帯同のための交通費や宿泊費が出せません。助成金の形でお支払いでもよいですし、会場のホテルを借り上げて安価に泊まれるようにするなど、何かできないかなと思いました。
※	冊子は一切不要毎年生化学会と合同大会でよいのではないか。
※	「雑談」というテーマ、ポスター会場で酒が出ているなど弛緩した空気、参加者の質よりも量を重視する姿勢、等がアカデミアの先端を競う場としての学会の価値を棄損し、「忘年会」などいわれる状況を久しく招いている。学会の原点に立ちかえり、先端の尖った発表を競うアカデミアの祭典を取り戻さなくてはならないと思う。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者番号	意見記述
※	演題数が多いのでデジタルプログラムでキーワード検索ができるのは有り難いが、そうすると意外な出会いをする機会が少なくなる。ざっくり演題タイトルを眺めていくだけでもときどき「おっ」と思うものに引っかかることがあるので、タイトルのみ記載の小冊子を作る意味はあるのではないかと思います。大きなネームプレートにしたのに所属先は大学名が小さく記載してあるのみで視認性が悪く邪魔なだけだった。シールのアイデアは面白いと感じたが、職位や専門分野はステレオタイプな偏りがあり使おうという気は起こらなかった。これは演題登録の際の分野選択についても言えることで、益々複雑化・複合化している生物学研究者の興味や対象をカバーしているとはとても言えず、早急に刷新すべきと感じます。
※	参加者が減ってきたとおもうので、収容人数の制約が少なくなってきたと思います。開催地を新しく考慮するのがよいと思います。
※	EMBOとの連携プログラム(MBSJ-EMBO合同企画ランチンセミナー「あなたの論文はどこへ行く」)の趣旨がよくわからなかった。せっかくの機会なので日本語でやってほしかった。Springerの方がなぜ参加されているのかよくわからなかった。
※	関連する分野の内容のシンポジウムが同時時間帯に行われてしまうことがあった。出来れば、回避してほしい。ショートトークが、よくわからなかった。アブストラクトは、ちょっと準備をするのが大変でした。海外招聘の旅費をもう少し増やしてほしい。
※	学会大会の運営、お疲れ様でした。色々な分野の研究者がいるため、まとめるのも大変だと思います。毎年学会大会も、画一的である必要はないと思っています。運営者たちが今以上に独自性を発揮して、もっと自由な形式で大会を企画運営できるようにしたら、さらに魅力的で面白い学会になると思います。宜しくお願いします。
※	とても充実した年会で得るものも多々ありました。ありがとうございました。一つだけ、職位をネームプレート(参加章)に表記させるのはおかしいです。協賛企業等からのリクエストかもしれませんが今まで見たことも聞いたこともありません。アカデミックな集いの平等性を凌駕する明らかな階級差別です。今後はやめてもらいたい。
※	分生は広い分野の研究者が集まるため、専門外の研究にも触れられることをメリットに感じていたが、規模が大きき目的の場所から動けなくなると結局広い情報というのは入手しづらいと感じた。規模が大ききことがデメリットになっては良くないと思う。規模が大ききことで学会前に十分な準備(聞く演題の選択や会場の移動タイミングなどの計画)をしておかないと聞きたいものも聞けなくなる。サイエンスピッチや企業のバイテクショールはオンライン(会場のみ)で聞けるようにした方が良かったのではないかと感じた。(ポスター会場が広く移動が困難で聞けなかったから。神戸開催特有の問題かもしれないが。。)
※	参加費が高すぎるのに、ドリンクなどが全部有料でびっくり、会場が分裂しすぎていて、移動が大変だった。
※	コロナ禍の先行きを予想しながらの企画でご苦労が多かったことと思います。口頭発表・ポスター発表ともに活気があり、対面開催の良さをあらためて感じる事ができました。ありがとうございました。演題数が多いため、検索しやすいオンラインプログラム・アプリは必須です。この点は改善を強く希望します。
※	ポスター展示会場にミスタードーナツが入っていたのはよかったです。頭が疲れているときに甘いもので糖分を補給するのは良いと思った。
※	部屋に入りきれず聴衆が溢れかえっている会場があった。ポスター会場が複数に分かれており、移動が面倒である。
※	神戸だと安心する。
※	Q19-1では地方都市もオンサイト開場の選択肢に入れるのが良いとある。オンサイトの規模が小さくなるのであれば支持できない。他に選択肢がない点でこの設問は誘導的であるといえ正しくないように思う。参加証にポジションを記入しては？という提案について気持ち悪く思う。提案することそのものも時流に外れていると思う。理由は1. 議論にはポジションは関係ない、2. 性や年齢、国籍、宗教などに執着せずフラットにしていくというのが時流だろう。憧れの研究者がどうのと導入文にも記載があるが、これらは科学する心とは別物。ポジションが書かれていることで何が促進されるのか。上から目線、権威主義を感じる。敬われたいという気持ちの表れか。科学ではなく政治をしようという気持ちの表れか。
※	まずはじめに、組織運営委員の皆様には尽力に心より感謝申し上げます。重たいプログラム冊子が無いことはとても有難いが、ネット環境が悪い場合は検索方法がなくて怖いと思う(前回大会はそれで悲惨だった)。参加費が2万円と高額で驚いた。日本語の講演が多かったため、他分野の話も理解しやすくてとても良かった(母国語での発表はちゃんぽん学会では重要なことだと思う)。
※	日本の学会なので、日本語でやって欲しい。英語のをやりたいなら別枠組みで国際学会をやれば良い。
※	全体的に評価しているが、参加証の肩書についてはその必要性を感じなかった。明らかに肩書を見て何かを判断している方が一定数いると感じるし、特に企業ブースではそれが顕著だと感じた。ポスト探しています、とか意味のある情報と異なり、肩書自体が学会における発表やディスカッションに何ら影響を及ぼさないのであれば、むしろつけないほうが、学生や若手研究者が自由に議論できるようになるのではないかと考えた。
※	・各講演場所が近い会場で開催して欲しい。各会場が離れていたため、セッションの間に梯子して聞きに行くことが難しかった。・ネームプレートに職位にシールは不要。サイエンスは職位に関係なく、研究者同士として接する場であるべき。上下関係/意識のつよい日本で、職位を気にしたり・先入観をもって接することを助長する試みであった。あえて職位シールをつくるなら、学生会員かそれ以外かだけでよい。・年会特別企画や学会企画でも登壇者の男女・年代のバランスを考慮して欲しい。EMBOとの連携プログラムでは登壇者が全員男、司会者がマスコットの女性という形式で違和感があった。また、他の企画でも登壇者にシニア層が多く、世代交代してほしい方がいいために感じた。・スーツを廃止してラフな格好で参加する学会というのを一度試してみたいだろうか?・ポスター会場に、番号だけではなく分類(「1. 植物」などのように)を貼って欲しい。ポスター会場を歩きまわる時に、携帯でプログラムを見る手間が省けてよい。
※	ポスター会場の前でカレーやサンドイッチが売られていましたが、あれは外で座って食べるのが正解だったのでしょうか。どこか屋内で座って食べられる場所の案内があるとよかったです。
※	アメリカ細胞生物学会(ASCB)と開催日程が重なる場合があるので、出来るだけずらして頂きたいです。
※	参加証のシールはあまり色などがはっきりしておらず、結局名前と所属くらいしか目に留まらなかった。求職中や人材募集中など、研究内容とは関係ないようなことを示す方がよいかと思った(ポスターなどで研究内容は説明するため)。シンポジウムの略称は、プログラムでみた正式名と大きく異なること、判別できなかった。
※	とりあえず、ポスター会場もシンポジウム会場も狭く感じた。もっとゆとりのある会場であればなお良かった。

質問21. 前問までの設問・回答に関連するコメントや、その他年会全般についてのご意見があればお書きください。ここが良かったので続けてほしい、あるいはここを工夫すればさらに良くなるといった改善案など、率直なコメントを広くお寄せくださるようお願いいたします。

回答者 番号	意見記述
※	<p>年会企画。(1)座長が冒頭から「準備不十分で出たとこ勝負」と受け取られるような発言をしてどうするの？シンポジウムやワークショップの口頭発表の冒頭で、発表者がそんなことを言ったらどうなりますか？(2)委員各自の成功体験を口にするだけでなく、その経験をもとに成功の事例を増やすにはどのような条件が満たされなければならないか、学会や会員の行動で実現できることがあるのか、最後に簡単にでもまとめて頂けませんか。(3)委員の所属が偏ってませんか。大学で学部教育も担当し、諸々の雑用を片付けてくれる補佐員を十分数雇用する余裕がない教員の比率は高いはずで、その状況を踏まえた発言ができる委員を迎えてください。会報の対談では、地方大学で、学部教育にもエフォートを割きながら、家庭を持ちつつしっかりと研究されている会員のお話に感じ入りました。その会員の時間を割かせるのは心苦しいけれど、若手(特に院生)の発表者を増やし、年会のみならず研究分野を盛り上げていくためにも、一人一演題の原則は死守すべきです。第46回日本分子生物学会年会 組織委員会の皆様、学会事務局の皆様、本当にご苦勞様でした。</p>
※	<p>キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2023、Part1&amp;Part2に参加しました。現場のざっくばらんなお話を聞くことができ、問題意識の共有とそれを一緒に乗り越えていこうという一体感を感じることができました。キャリアパス委員長が男性ワンオペ育児をされていた経験があるというのは強いメッセージとして受け取りました。個人的な事情もありかと思うので難しいかもしれませんが、もっと詳しいお話が聞きたいです。実は、男性でワンオペ育児している人も一定数いるはずで、勇気付けられると思います。また、ワンオペではなく、男性・女性でうまく家事・育児を半々に分担しているケースなどもぜひ聞いてみたいです。別件で、パネリストのダイバーシティがもっとあると良いかと思いました。日本でPIをしている外国人や、外国でPIをしている(していた)日本人が、キャリアをどう考えるか、興味があります。</p>
※	<p>本会は基礎系最大学会としての存在意義があり、運営に携わる方々へは感謝する。一方で、分子生物学自体が学問分野として変革する時代に、繰り返し同じ理事メンバー＋その門下生による永続的運営は、会員目線から離れていくことを危惧する。会員数減少はどの学会も直面するが、学会の質的向上による魅力以外に会員としてのメリットは無い。毎年拡大というか拡散する感のある祭り年会の改革、初心に還り学会誌を充実させる改革など、「会費の使途」についてのマンネリを廃する自覚と仕組みがあるべき。</p>